

委員会視察成果報告書

令和 7 年 10 月 23 日

犬山市議会議長

議員名 久世 尚裕

下記のとおり、視察の成果を報告いたします。

(1) 視察年月日	7 年 10 月 7 日(火) ~ 7 年 10 月 8 日(水) (1泊2日)
(2) 視 察 地	岡山県笠岡市 兵庫県西宮市
(3) 視察の種類	常任・特別 委員会 (民生文教 委員会)
(4) 視 察 成 果 (視察地ごとに記入)	別 紙
(5) 犬 山 市 に 対する提言	別 紙



視察日：令和7年10月7日

視察先：高梁市立図書館

視察目的：読書離れを防ぐための次世代図書館のあり方について

1. 視察内容（岡山県高梁市）

(1)概要

高梁市(人口約2万5千人)は、岡山市から電車で約30～40分の山間地域。市は駅舎を再開発し、建物を建設、運営をカルチャーコンビニエンスクラブ(CCC、蔦屋書店)に委託している。館内にはスターバックスや蔦屋書店が併設されており、年間来館者数は約50万人に達する。

(2)施設構成

- ・ 1階:蔦屋書店、スターバックス、物販コーナー
- ・ 2階:市立図書館(調査・研究・地域資料コーナーが充実)
- ・ 併設機能:観光協会、CCC職員の出向(観光協会内での商品開発を実施)

(3)特徴

- ・ 図書館と書店、カフェ、観光拠点が融合した「複合型文化拠点」
- ・ デザイン性が高く、世代を問わず集える場
- ・ 図書館としての機能に加え、地域の観光・商業のハブとしても機能
- ・ 物販の売上が書店売上与同等規模に達するなど、高い収益性を確保
- ・ 備中松山城(現存天守)の観光地と一体化した立地効果

(4)評価

- ・ 文化・商業・観光を融合した「まちづくりの核」として機能
- ・ 公共性と民間ノウハウの両立により、地域経済にも寄与
- ・ 人口規模を超える利用者数(市民の20倍)を実現

2. 犬山市への提言

(1)図書館の再整備に向けた視点

犬山市立図書館は1990年開館(愛知県内で最も新設が遅い)から35年が経過。現行施設も努力して運営されているが、時代に合わせたリニューアルの検討が必要。

(2)複合機能の導入

- ・ 図書館法の範囲内で、併設カフェや物販などの収益事業を導入し、施設運営の一部を自己財源化。

- ・ 書店やカフェとの共存型図書館を構想し、滞在型・回遊型の利用を促進。
- ・ 図書館利用をきっかけに商業や観光への動線を作る仕組みを検討。

(3) 立地と都市再生の連動

- ・ 駅前立地は図書館との親和性が高い。
- ・ 犬山駅舎リニューアルを見据え、公共用地(駅通路など市有地)を活用し、図書館を含む複合施設化を検討。
- ・ 駅・図書館・観光拠点・商業の一体的再整備により、「まちの玄関口」としての機能強化を図る。

(4) 長期的視点

- ・ すぐに決定事項ではないが、次期都市構想・公共施設再配置計画の中で位置づけるべき重要テーマ。
- ・ 「収益性を持つ公共施設」という視点を今後の行政運営に反映させる必要がある。

視察日：令和7年10月8日
視察先：西宮市役所
視察目的：小規模保育事業所について

1. 視察内容

1. 市の概要と背景

西宮市は人口約49万人の「文教住宅都市」。
阪神間のベッドタウンとして人口流入が続いており、保育需要が高止まりしている。
令和6年4月時点で待機児童76人、全国ワースト2位。
大型マンション開発が進み、子どもの減少に反して保育需要はむしろ増加傾向。

2. 保育施設整備と地域指定

平成24・26年度に待機児童ゼロを達成したが、その後再増加。
市は人口動態を踏まえ、今後も子ども数が減らない地域を特定し、その地域限定で民間保育所の募集を実施。
物件は事業者持ち込み方式で、改修費は国補助金を活用。

3. 地域型・小規模保育の導入経緯

ゼロ～2歳児対象の地域型保育を拡充する一方で、卒園後の受け皿不足が課題。
令和3年度から国家戦略特区を活用し、1～3歳児を対象とする「特定小規模保育」を導入。
卒園後は公立幼稚園へスムーズに進級できる連携体制を構築（行事参加・相互訪問等）。

4. 施設数・運営形態

民間主体（株式会社運営が多数）で、入所児童が確保できれば経営は安定。
一方で、人員確保の難しさや代表者高齢化等により撤退事例もあり。
保護者の満足度調査は実施していないが、苦情・意見は個別対応。

5. 公立・民間の役割と再編方針

公立22園、私立32園、認定こども園41園。
財政健全化の一環として、公立保育所と幼稚園を統合し認定こども園化を推進中。
民間活用を前提とした持続可能な運営体制を志向。

6. 地域差と開発対応

南部の沿線部で保育需要が集中し、北部（山口・塩瀬）はやや余裕。
マンション開発と保育施設整備の調整（開発時期の延期等）は実施していない。
市全体でサービス均一化を基本方針としている。

7. 保育士確保・処遇改善

保育士不足対策として家賃補助、勤続3・5年目に各10万円支給、奨学金返済支援を実施。
国の処遇改善加算が適切に賃金へ反映されているかを確認。

2. 犬山市への提言

1. 地域別需要予測に基づく整備

マンション開発や人口動向を踏まえ、将来的に児童数が減らない地区を重点整備地域として明示することが有効。

2. 公立・民間の役割分担

西宮市のように民間を主軸に据え、公立は安全網（セーフティネット）として限定的に運営する方向性を検

討。

3. 小規模・特定小規模保育の活用

犬山市でも、1～3歳児対応型の小規模保育を導入し、幼稚園や認定こども園への連携ルートを明確化することが望ましい。

4. 保育士確保・定着支援

家賃補助や勤続年数による支援金など、定着促進策を財政的に支える制度を検討すべき。

5. 開発と保育需要の調整

住宅開発・マンション建設と連動した保育所整備時期の調整メカニズムを検討することが課題。

6. 行政運営の柔軟性

人口動態や地域特性に即した弾力的な募集・配置制度を構築することで、過不足のない受け入れ体制を実現できる。